



球場いっぱい笑顔輝く

8月20日に「みんなの輝く☆を見つけよう！プロジェクト」を実施。埼玉西武ライオンズとサッポロホールディングス協力のもと、特別支援学校のこどもたちをプロ野球の試合に招待。上毛新聞敷島球場には、こどもたちが描いた絵を基にしたメッセージボードが掲出されました。



かるたで地元を再発見

総合教育プラザ教育資料館で企画展「学校カルタの世界」を9月30日まで開催。同館収蔵の学校カルタや郷土カルタなど45点を展示しました。市内の学校や地域などで作成されたかるた各札のほか、制作過程や特徴、学校の授業での活用例などを紹介しました。

CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

デフスポーツで技競う

9月12日～15日に「舞い上がれ！上州の地から全力疾走!!」をテーマに本県初の全国ろうあ者体育大会が開催されました。本市と高崎市、太田市を競技会場に11競技を実施。本市では陸上競技や卓球、ソフトボール、フットサルなどを実施し、熱戦を繰り広げました。

パリ五輪のバドミントン競技で日本人女性初の審判を務めた坂本さん。小3から大学まで選手を続け、教師になってからはバドミントン部の顧問となり、国内審判の資格を取得した。

「平成23年に国際審判員養成セミナーに参加し、平成24年にアジア認定審判員、平成30年に世界バドミントン連盟(BWF)の国際審判員資格を取得しました」

昨年7月、BWFからパリ五輪の審判に指名され、国際試合で経験を積むため高校教諭を退職した。

「指名され驚きましたが、国際審判員になったからには五輪に行かなくてはという使命感がありました」

パリ五輪では16試合で審判を務め、一試合一試合大事に取り組んだという。

「審判は点数を数えるだけでなく、選手のどちらかが不利にならないように制御するマッチコントロールが重要。正しい判断ができるようにルールはもちろんですが、判断力を高めるために色々なケースを動画などで日々学んでいます」

現在は教諭として勤務していた伊勢崎清明高の部活動指導員としても活動している坂本さん。

「バドミントンは駆け引きをして相手をどう崩していくかが大事な競技。点差が離れていても逆転すること。フィジカルだけでなくメンタルも大事なスポーツです」と魅力を語った。

選手と一緒にいい試合を作り出す

いきいき
まえばし人

日本バドミントン協会審判部会
国際事業担当グループ長
坂本 恵美さん・50歳
下新田町



坂本さん提供



今回は勢多農林高で作っている卵「セタたま」を紹介します。

同校が所有する上泉町にある農場では、技術習得のため、養鶏班の生徒たちが約350羽のニワトリを飼育しています。鶏舎内は清掃を徹底し、ニワトリの健康管理、卵の品質管理にも日々気を配っています。適切な衛生管理を継続することで、衛生管理基準に適合した農場しか取得できない農業HACCP認証も受けています。

ニワトリの飼料にもこだわりが。配合飼料にパプリカ由来の添加物やカキ殻を加え、卵の濃さや殻の強度を高めて質の向上を図っています。

こうして生まれた卵が「セタたま」。鮮度の高い状態で消費者へ届

けるため、その日のうちに生徒がパック詰めします。パックは環境に配慮し、再生紙などでできたモウルドパックを採用。パックデザインは、養鶏班メンバーの意見を取り入れながら、生徒が作成しました。

本年度、日本学校農業クラブ連盟大会でこれらの活動を発表したところ、関東地区で最優秀賞を受賞。今月開催される全国大会に出場予定です。

養鶏班2年生5人のやる気の源は販売イベント。消費者と直接会話をし、卵を買ってくれたときに日々の活動を頑張った良かったと感じるのだそう。セタたまはいつも人気で、数十分で売り切れてしまうこともあります。

セタたまは、同校内直売所で販売するほか、イベントなどで購入できます。詳しくは二次元コードをご覧ください。



農政課
027-898-5841



勢多農林高養鶏班2年の皆さん